令和元年７月２３日
杉並区立杉並和泉学園
学園長　田中　　稔
担任　鈴木　千晃
大久保　未来
野﨑　俊彌
坂本　昌子
副担任　竹内　淑香

あすなろ

いよいよ夏休みが始まりました。夏休みは、家庭に戻って長い時間を過ごすことになります。このチャンスを生かして、長い夏休みだからこそできることをたくさん経験してほしいと思います。また、1学期の学習内容で苦手なところや習得しきれていない部分を復習して、2学期を迎えられるとよいです。

確かな学力を育む取組

学園では、学習内容をより定着さるために、学び残しやつまずきを減らすための個別学習を充実させたり、協働学習を推進したりするなど、授業改善に取り組んでいます。

また、確かな学力をより一層定着させることができるように放課後学習や家庭学習の見直しも図っていきます。特に２年生では、国語・算数の学習において、以下の力を付けることを目指しています。

≪国語≫

話す力・聞く力

① 身近なことや経験したことを順序よく話したり、相手の発言を受けて話をつないだりする力

② 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容をとらえる力

授業改善のポイント

- 朝の会のスピーチで順序よく話したり、話の内容を受けて質問したりします。
- 説明し合ったり、意見を交換したりするなど、少人数で話し合う活動をしていきます。

読む力

① 事柄の順序や場面の様子、登場人物など、内容の大体を捉える力

② 文章を読んで、大事な言葉や文を見つける力

③ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ力

授業改善のポイント

- 全体読み、「。」読みなど音読活動を充実させます。
- 文章にサイドラインを引いたり、大事な言葉に印を付けたりします。
- 物語や説明文を読み、感想をもつ時間を多く取り入れます。

書く力

① これまでに学習した平仮名、カタカナ、漢字を正確に書く力

② 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書く力

③ 書きたい内容を分かりやすく書く力

授業改善のポイント

- 書いた文章は一度読み直すように指導します。
- 文章の内容を考える力を伸ばすために、「はじめ・中・おわり」の構成を意識して文章を書く活動をしていきます。
- よい文章を読むことはよい文章を書くことにつながります。音読とともに、友達の文章を読む機会も設定します。
- 作文や日記などは、時系列で出来事だけを書くのではなく、伝えたいことをしぼって、それについて詳しく書くように指導します。

≪算数≫

測定する力

① 水のかさ、長さ、時刻と時間などについて、目的に応じた単位で量の大きさを表現する力

授業改善のポイント

- 繰り返し反復学習ができるようにプリント学習や宿題を出します。
- 身の回りのものがだいたいどれくらいの量かイメージできる活動を充実させます。

計算する力

① くり上がりのあるたし算、くり下がりのあるひき算を正確に計算する力
② かけ算九九を確実に覚えること
③ 文章を読んで式を立てる力

授業改善のポイント

- ドリルやプリントなどを使って繰り返し学習していきます。
- かけ算九九カードや暗唱テストを通して、定着を図ります。
- 文章を図にしたり、キーワードに着目させたりすることで、式のイメージを確立します。

そのほかにも、ただ求められた答えを出すのではなく、「どのように考えたのか」という考えの道筋を大切にしながら、学習を進めています。このことによって、思考力や表現力が養われます。また、自分の考えをもったり、友達の考えを聞く時間を大切にすることはもちろん、ふりかえりの時間を充実させることで、その日に何を学習したのか意識させ、学びに向かう姿勢を育てます。

ご家庭でお願いしたいこと

毎日の宿題

音読　・・・低学年では、教科書を声に出してスラスラ読めるようにしていくことが大切です。保護者の方が聞いていて、意味が分かるように読めていれば安心です。読みの力がおぼつかない場合は、まずは子供に読ませるより保護者の方が読み聞かせをしてあげるとよいです。読んだ後には、感想を伝え合ったり質問をしたりして、内容を理解しているか確かめてください。

漢字ばっちりノート・・・「とめ、はね、はらい」に注意して、正確に書けているかを子供と一緒に確認してください。正しく鉛筆を持ち濃くしっかりとした字を書くこと、枠の中にバランスを意識して書くことも大切です。

計算ばっちりノート・・・毎回丸付けをしていただき、ありがとうございます。
間違った問題はその場で直しをすることが重要です。何を間違えたのか後で見返すためにも間違った回答は書き残しておき、もう一度赤で直します。
筆算の際には、必ず定規で線を引いているかも確認してください。

かけ算九九カード　・・・２学期から始まります。今後の学習につながる大切な学習です。スラスラと言えるようになるまで繰り返し聞いてあげてください。２年生でしっかりと習得していないと、学年が上がってから覚え直すのは難しいです。

２年生の家庭学習

＜家庭学習時間のめやす＞
30 分（１０分×学年＋１０分）

子供の実態に応じて、何をさせる必要があるのかを一緒に考えてアドバイスしてください。
例えば・・・授業で学習したことの復習や、自分の課題を克服するための学習
興味や関心のあることを追究する学習

≪国語≫

〇進出漢字で言葉づくり・・・漢字を正しく「使う」ことができるようになります。
新しい語彙を増やすことにつながります。

〇読書・・・読んだ後に感想を話し合ったり、話の続きを自由に考え伝え合ったりすると表現力や読解力が伸びます。読書の習慣が身に付いている子供は、絵本だけではなく、文章が多く挿絵が少ない本に移行していくのも良いです。

＜読み聞かせのススメ〉
考える力、考えを伝える力はすべて言葉です。その言葉を増やすのが本です。語彙力がない子供は、算数の問題を理解するのにも苦労します。朝の読み聞かせの時間や図書の読み聞かせの時間の子供の様子を見ていると、みんな興味津々にお話を聞いています。子供の考える力を伸ばすために、毎日５分でも良いので、「読み聞かせ」を続けるのはとても効果的であります。また、読み聞かせは「あなたのことを大切に思っているのよ」と伝える時間にもなります。

≪算数≫

〇１０の補数・・・「9と1で１０」「8と2で１０」「7と3で１０」のように、合わせると１０になる組合せを「１０の補数」と言います。「１０の補数」を身に付けている子供は、計算が速く、計算ミスが少ないです。
「4と？」と質問して子供に「６！」と答えさせるなど、やり取りをしながら楽しむことができます。

〇時刻と時間・・・日常的に以下の会話をするだけでも、定着が図れます。
例①　：午前・午後を使って時計を読む。
例②　：保護者「宿題　何分間で終わらす？」
子供　「うーん。３０分間。」
保護者「では、３０分後の〇時までには終わらそうね。」
例③　：保護者「1 時間後にはタ飯にするわよ。」
子供　「1 時間あれば、宿題と明日の準備ができるな。」

〇１００より大きな数・・・リズムよく２５０くらいまでが唱えられ、１０００くらいまでの数が読めて書けると、授業でのつまずきが少なくなります。お風呂で数を数えてから出る。「１００、９９、９８…」と、さかさまに数える。買い物に行ったときに値札を声に出して読むなど、数に多くふれる場面を作ると良いです。

○九九カード遊び（教科書下ｐ２０）　※2 学期以降

同じ答えの式が複数あることに気付かせます。
これは、５年生で学習する「倍数、約数、公倍数、公約数」の学習につながっていく力です。

どんなカードが勝ちやすいか考えることで、「かける数」「かけられる数」の関係の理解を深めます。

（ほめて伸ばす・苦手な問題はサポート）

何かできたらほめましょう。口に出してほめることがポイントです。保護者の方のほめ言葉は、抜群の効き目があります。

苦手な問題はできるようにサポートしてあげましょう。ミスが多いテストやプリントを見ると、苦手な問題やミスの傾向が分かります。例えば、「７＋８」の答えがあやふやであったり、九九の七の段だけいくつか忘れていたりなど。ミスしやすいものだけ、答えを含めて紙に書いてそばに貼っておき、不安になったとき子供がチラリと見れば、安心して答えが書ける工夫なども効果的です。そして頑張った後には必ずほめ言葉をかけてあげてください。「そんなことをしたら子供のためにならないのでは」と思われるかもしれませんが、家は学校ではありません。大切なことは、子供が勉強を好きになり、自分からすすんででき、学校へ行くのが楽しいと思えることです。保護者の方は、子供にとっての一番の味方であってほしいと思います。

（考える力を付けるための日常会話）

普段の会話の中で、「考える」きっかけ作りをしていただけると、徐々に子供が自ら「考える」習慣が付きます。「考えること」は社会人になってからも必要な力です。勉強の応用力のみならず、将来にもつながる「考える力」を付けていきたいです。「考える」きっかけを作るための「問いかけ」を以下に紹介します。

問いかけ①自分の言葉で語ること…「このお話を短い言葉でまとめるとどのようなお話？」
「この問題の解き方を自分の言葉で説明するとどうなるかな？」
「この人の言っていることはどういうことかな？」
問いかけ②疑問に思うこと…「なぜそうだと思う？」「どうしてこうなんだろうね？」
問いかけ③手段や方法を思いつくこと…「どうしたらいいと思う？」「どのように感じた？」

また、学校での出来事を聞く際に、その日の学習内容についても話を聞いてあげる時間を作ってください。ノートや教科書を見ながら話を聞いていただけると、子供も話しやすいです。

子供が話をし始めたら、大人が知っていて当然の内容も初めて聞いたかのように驚いて聞いてあげることが大切です。子供を「先生」にしてあげてください。

初めのうちは子供が内容をしっかり話せる必要はありません。保護者の方が「それで？それで？」と聞き返したり、「そうなんだ！すごいね！」と共感したり、ほめてくれたりすることで学ぶ意欲が高まります。それだけでなく、「次はもっとお家の人に教えてあげよう。」という気持ちが授業に向かう姿勢につながります。

☆家庭学習について困ったことや分からないことがありましたら、遠慮なくご相談ください。個々に合った学習内容や取り組み方について、一緒に考えながら子供のすすんで学ぶ力を育てたいと思います。